



三勝  
半七

南柯夢

前篇

戴

~13  
3909  
2



門 へ 13  
號 6909  
巻 2

# 土田村 ち丹一

新編  
昭和三十八年  
六月三日  
小田新吉代  
長男夏次  
氏書贈  
田中

三七 全傳南柯夢卷之二

圖書印

稚兒の頼夫

東  
曲亭馬琴編次

曲亭馬琴編次

馬琴

さんまら じんけん のゆめ  
つろあいのれど 既に約束の日  
半六の先をうけて 山の羊腹  
ええとてろろとも小樹のや  
あつちを二の枝を研む  
議論は 野夫ふも功者あり  
領主も本意遂  
つろあいのれど 既に約束の日  
半六の先をうけて 山の羊腹  
ええとてろろとも小樹のや  
あつちを二の枝を研む  
議論は 野夫ふも功者あり  
領主も本意遂

圖書印

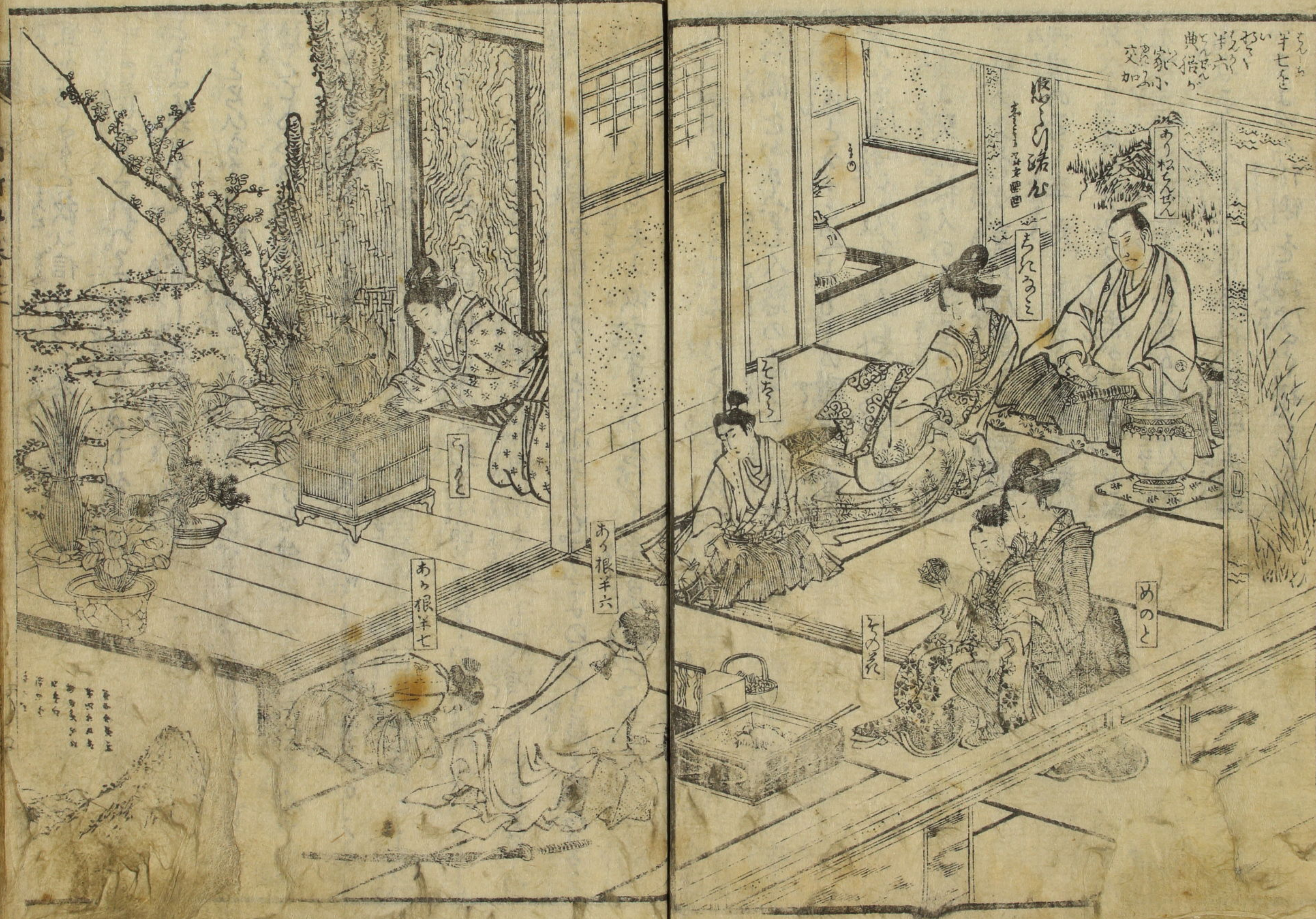
九面目をまき、只骨嘆賞して己ど。才六けて聊も誇る気さうく。こゝ  
 る領主の御威福よらう。とひ一箇に成就するはさめ。と  
 みる。も願ふやうせしむと志をぬら。うらうけあがめり。  
 一こひの典指良政。とて後安られ。ともかりて。其許の成  
 願と果らん。も胸中よりありと應へ。才六けて。所託を  
 樵夫小對ひ。く。うらうらう。己既は法をり。木精を滅却して  
 の枝をあら。その榦は傷つけ。崇るをまじ。せん。めく。力を  
 戮して挽あ。う。との。樵夫ホ。面あ。り。よ。の奇特を。ん。り。や  
 るれば。もみり。せ。よ。こ。女堵。る。た。が。り。稱讃。き。鳴。己  
 どの目をよ。分。と。ゆ。て。件。の。楠。を。挽。よ。七。間。四。面。の。版。二。枚。五。間  
 四。面。の。版。四。枚。を。ひ。く。り。その。餘。材。梁。と。棟。と。す。べ。た。り。の。板。也。

違あ。う。ど。順昭縁故を。き。り。感悦斜。う。ど。よ。の。一。木。を。り。く。茶  
 亭を造。り。し。られ。を。審。雨。堂。と。ま。つ。く。その。跡。南。柯。の。蟻。の。故。事。  
 二。稱。る。と。思。後。る。の。三。王。の。官。殿。は。額。あり。審。雨。堂。有。在。間。小。典。指。と。る。  
 類。小。才。六。と。吹。拳。し。彼。が。先。祖。を。尊。る。よ。楠。正。勝。の。老。堂。へ。り。と。を。  
 子孫凋落。し。五。世。よ。る。か。と。い。ふ。今。小。武。士。の。志。を。喪。と。弓。馬。の。興。  
 義。も。よ。こ。家。に。け。く。舊。の。武。士。よ。ら。う。よ。う。は。う。の。あ。れ。が。兼。食。也。  
 くて。さ。り。よ。才。か。む。り。縦。家。に。巨。萬。の。財。を。積。も。金。浪。の。美。ひ。あ。り。  
 此。度。の。恩。賞。よ。一。握。の。米。も。あ。れ。領。主。の。禄。を。給。さ。る。か。の。故。事。  
 も。ら。ふ。あ。ら。本。を。ま。る。べ。と。り。り。け。小。の。面。鏡。物。の。用。よ。り。と。し。て。  
 ん。え。ゆ。の。あ。れ。莫。大。の。御。庇。を。り。も。靴。を。靴。鑣。を。幸。し。ぬ。や。と。信。た  
 して。才。六。も。順。昭。氣。を。よ。く。謙。ひ。く。能。を。奉。士。と。薦。る。は。か。職。も。

功ありのをいひ賞せしむるの亭ありて出づればまづ坐の  
 賞賤をさしと仰りてあつる嫡男吉推丸今茲十歳より  
 之の鑑の被知あるべしとて。つらつらその用意をせしむる。年興  
 上旬よりびく。茶亭も成就せしむ。順昭是彼慶賀の折。成  
 る。赤根羊六を召出。五十貫の新比を賜ひて。郡山の北なる  
 五條の村主を命ぜりて。びくして。さし年未の宿志を遂と領主小  
 拜謁し。丹波都が女児あさん。を妻の姪と稱。論。論。羊七とて。心  
 おく。五條の宿所より。移して住す。よし。馴。一。翁の成敗を  
 管。之。秣の運送。せし。兵。檢。する。成。身。の。勢。と。日。毎。一。奈良。一。出。仕。する  
 移。し。て。下。さ。し。ある。司。ろ。れ。ど。の。御。う。て。威。勢。あり。の。乃。体。小。佐  
 保の御人ホるさし。親も疎もさし。親も疎もさし。親も疎もさし。親も疎もさし。

するの水を求る。水をけり。飽とぬ。更。湯を求む。湯をけり。飽と  
 ぬ。酒をかりぬ。是人慾の慎。が。た。不。あ。れ。ば。才。六。既。よ。を。足。つ。く。領。主  
 の家臣とあると。い。く。も。その職役の卑。を。厭。ひ。ゆ。か。り。と。近。臣。の。列。り  
 入り。る。は。時。を。け。り。政。事。よ。る。り。や。と。と。暇。ある。日。の。親。し。く。典。儀  
 が。家。に。交。加。彼。人。の。乃。志。を。運。て。冬。の。障。子。の。隙。を。張。更。く。寒。夜  
 は。爐。の。火。を。吹。夏。の。屋。裏。る。蜘蛛。網。を。掃。拂。く。火。火。二。井。を。曝。し。  
 奴。僕。の。ぞ。く。奔走。し。く。その。電。二。媚。り。か。る。典。儀。の  
 人。よ。を。け。り。ける。その。典。儀。が。妻。の。名。を。敷。浪。と。呼。ぶ。と。  
 九才。女。兒。園。花。四。才。よ。む。む。り。ぬ。人。子。を。け。り。と。ぬ。と。  
 も。及。ぶ。人情。の。常。あ。れ。ぬ。典。儀。夫婦。も。羊。六。が。女。子。す。て。が。湯  
 び。と。い。と。吟。喇。を。け。り。ぬ。お。く。それ。が。女。香。を。例。よ。さ。し。六。の。既。

ちん  
半七を  
い  
おひ  
半六  
典倍  
家小  
交加



あゝ根羊七  
あゝ根羊六  
めのと  
そのえ

宜を召しと致し信しとて答るる。さうしてあつて。某原野下の  
 中よ養育せんが子を教ふるもはなはだ。今の君はさうして  
 どもよ心をえも習し。君の力自の力も文筆も武藝もどのむき  
 てのとひらぐ。師を擇むの容易くもぬが。まはあのがさうして  
 後ともあはつる。男の童の走りも健軽くも。君はあつて。老  
 るの心勝るともあつて。おりのすてを呼し。あひて。茶のひらみど  
 つららとあひあひ。彼がたつた。大なる僥倖なりと。只官媚といひら  
 次の日すてをわく。典指が芽よ到る小。曾を帯りし。陪侍の  
 うれい。そのほろろを離るる。典指夫婦も。入憎く。どとあつて  
 食ふもの。曾を昂と。ろとも小。さうして。つが子の。どく。慈を。あつて  
 輪を。その志夫よ似ど。すてが。さうして。奈良。あつて。典指が。あつて

するを。痛痛く。あつて。ある日夫よ。りり。が。初り。と。あつて  
 へよ。の教。あひ。を。けり。さうして。君よ。は。の。公。車。よ。あ。つて。執  
 権の。門。よ。到。ら。ど。と。あ。つて。蟻。松。あ。つて。一。の。老。臣。よ。あ。つて。目  
 末親。く。交。加。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて  
 指し。と。ど。ろ。あ。つて。何。も。新。糸。よ。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて  
 だ。只。信。す。よ。の。職。分。守。り。と。在。と。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて  
 彼。処。へ。入。り。し。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて  
 知。と。も。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて  
 ま。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて  
 その。り。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて  
 す。七。を。奈。良。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて。あ。つて

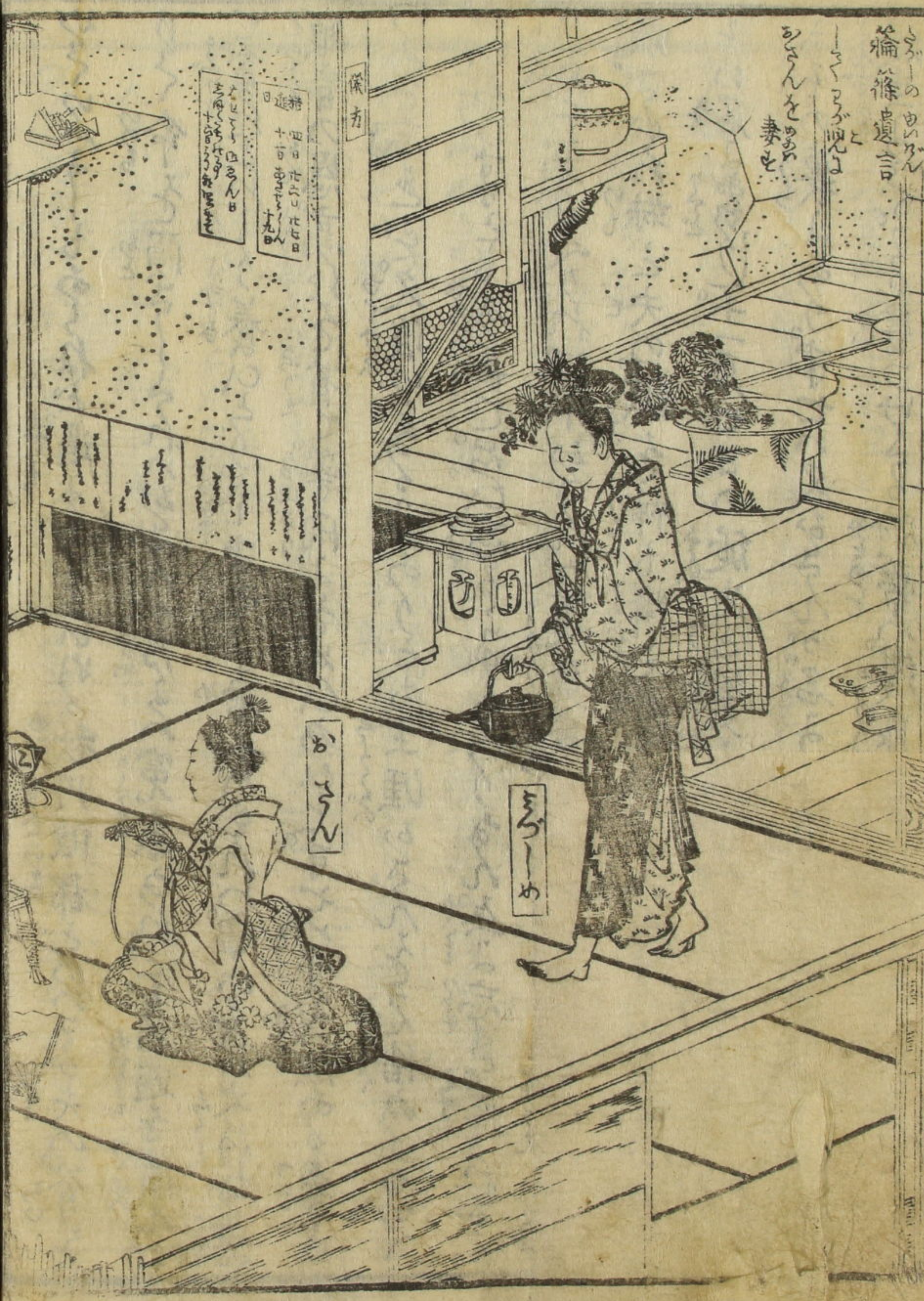






輪條遺言

あつとをうけ  
あつとをうけ  
あつとをうけ



見も又奇くも故ありけし女の妬らるるあり百の掛をひくとどど貞女  
 義男の故の賢人の記しあける書えくもあつて他一人をかを  
 殺して母が遺言し悖るもの不孝の子不義の婦なり。よく脛帯の  
 脛をうさめくどひ恨めばぐんは是夫婦がりの穢どり。あさん  
 又三才のとれよ。列し母ありとすべ神仏は祈念してひくれうべ  
 三味線の撥を割けし環會親子の名吉志をよお七も力を戮  
 て善俗へする序あつて外なるか人の往方さうりく。安んずるその  
 夙願を果さるあ忠孝の道いひもさうり。安んずるは只その命  
 長くて惜れよ。五十年忌の季らどももあれけを吊あつ草の原  
 ころくつらむらり。うまうつらむらりも名残を。とむらり小掩ふ  
 小餘る恩愛の涙は袖へそはれられて項は掛らるるもらら護身帯

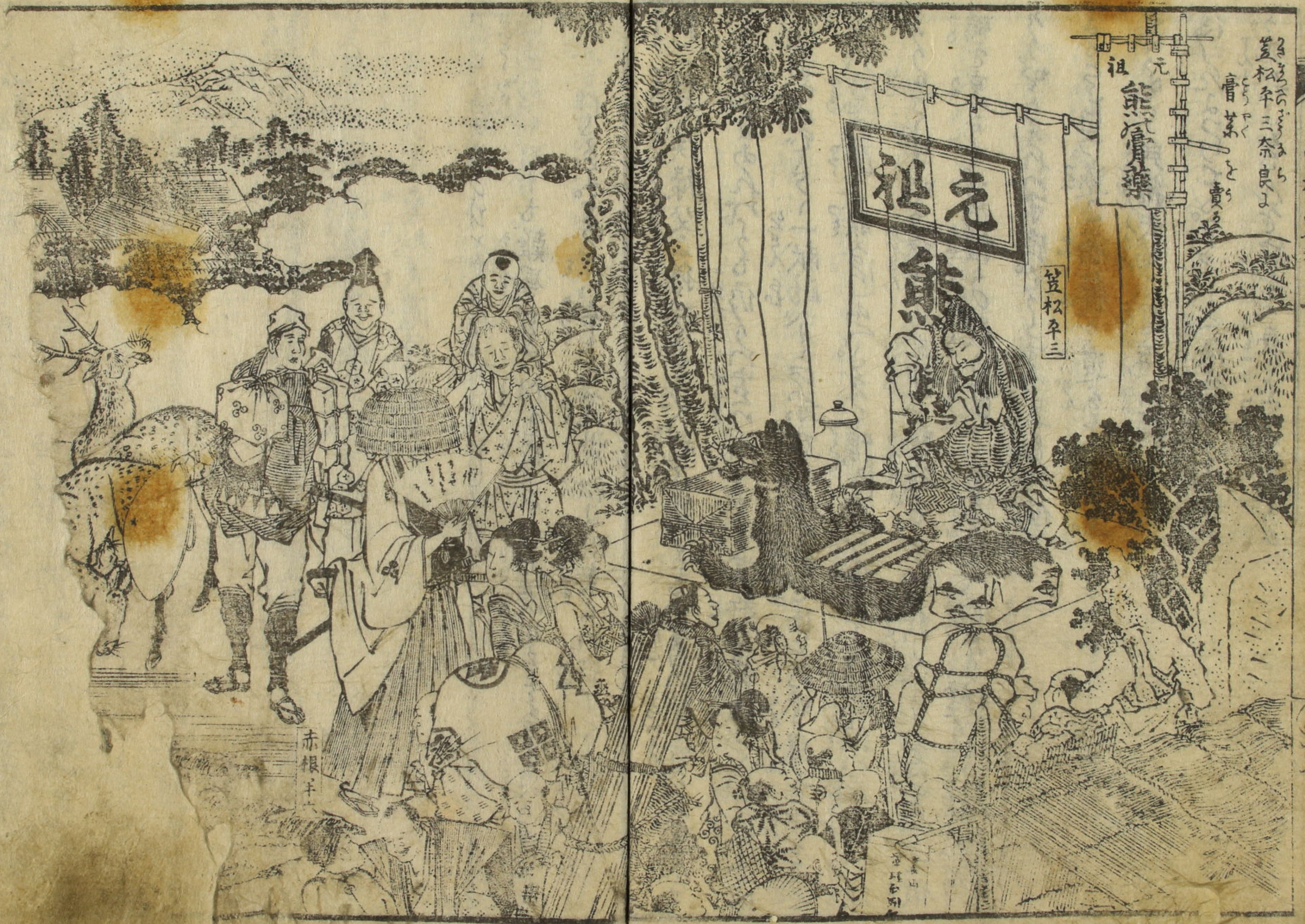
とさうりえさ。夫のうさ會釈され。すはがく土器を。あさん。ほらり小  
 うらつら。三々九度の勸杯も。今ど載く親の恩。お七も諸とも小母の教  
 訓身へ入る。涙は濁と味酒の三輪の苧隈うらら。と婚姻の式果小なり。  
 かくて後禰篠篠の一言もりのりあさうり。とらうり臨終を行らるるがその嚙  
 昏し弥陀の宝号十遍むらり唱ら。平然とて絆ぬらら。とらうり  
 あがく今更しほらうり。すはがく愁傷のさうり。お七あさん。天よ叫ひ  
 比し倒して哀悼を。紅涙空に枕を侵らり。さうりもあさん。小あさん。これ  
 はず六の夜の夜。妻の送葬秋のうら。管は丹波都が一周忌も。この日小  
 堂あさうり。共し経誦して追薦の仏を執行ひ。さうり寂寥を  
 目をあうらね。

あうら坂の倭人









高木 卷三

笠松平三奈良

賣茶

祖元 熊

祖元 熊

笠松平三

赤根









白刃と閃し七  
羊六平三小  
通致



赤根羊六

笠松平三

南村漫卷二

を動して。ろろろれ。とを安うね。伏念せよと罵らる。刃を閃くと欲んとするを。銚子をりろく。柱を。酒を。ばれて散乱。づか身は。命を。踏もく。刀尖丁と受とめて。呵くと冷吠ひ。命惜と。と。輓と。怒を。刀と。ろろろ。と。友と。騒ぬ男。ひよ。お。の。天晴。煉。晴。違。その金を納。後。事。審。小。相。諾。一。と。平。三。金を。中。擲。財。は。絆。され。と。する。の。の。破。よ。び。物。の。用。は。徒。と。ひ。の。縦。金。と。あ。と。と。東。道。と。半。日。の。醉。を。場。を。の。報。を。の。稱。は。ま。行。よ。れ。を。と。諾。は。中。の。ま。と。く。感激。と。と。金を拾。集。赤。銅。納。子。銀。と。柏。葉。は。大。の。字。の。

紋。の。割。掃。杖。を。鐔。の。間。より。抜。出。し。扇。を。并。れ。て。金。と。も。ふ。と。載。せ。ろ。れ。全。く。賤。を。り。其。許。を。誘。ふ。あ。と。の。二。品。の。當。は。す。志。を。表。す。る。の。と。を。納。め。事。成。物。と。列。は。抜。ひ。を。と。と。と。可。憐。は。す。け。も。と。平。三。と。と。金。と。掃。杖。を。と。と。懐。は。扱。は。る。お。六。や。ろ。ろ。安。堵。と。額。を。合。し。耳。を。と。ろ。ろ。困。窮。數。刻。よ。る。と。逸。は。女。の。童。を。ひ。酒。を。節。叢。を。添。う。更。は。四。五。杯。を。の。酒。店。を。走。り。出。ず。と。東。西。は。列。れ。り。の。日。の。野。の。密。談。を。と。と。と。花。は。女。の。童。も。と。と。と。紛。を。と。と。彼。二。人。が。密。談。を。と。と。と。

大柏の権輿

あ。ろ。ろ。の。次。の。日。の。輪。縁。が。百。箇。日。の。速。夜。と。の。し。ぶ。赤。根。守。の。は。

師は経を誦し。又親に友を招き。物食のふとす。日暮れ。客は  
 帰つたり。れは。六つ。七とある。んは。い。やう。佐保。と。四里。あり。路を  
 る。は。は。推。れ。一。度。も。母。の。墓。を。と。せ。り。聖。の。平。天。心  
 う。く。仏。の。結。願。の。日。ある。よ。も。う。ら。は。ひ。く。願。成。寺  
 と。め。く。起。あ。つ。り。の。六。七。と。あ。る。ん。も。と。あ。か。あ。る。気。さ。す。の。夜。は。仏  
 堂。の。香。の。り。と。え。く。め。ろ。た。は。回。向。の。常。より。の。迷。く。外。れ。と。う。曉  
 ず。ぬ。ら。ら。よ。起。出。ぎ。浴。一。髪。を。結。せ。用。意。既。よ。整。ひ。の。六。つ。一。杖  
 の。轎。に。二。人。の。童。を。乗。し。て。奴。隸。ホ。一。早。し。と。う。う。轎。に。引。と。めて。成  
 寺。へ。を。詣。る。し。と。う。と。す。れ。と。冬。の。日。の。短。に。小。彼。処。に。到。つ。て。も。是。彼。小  
 時。を。う。ら。し。ぬ。る。比。及。ま。の。日。も。西。山。は。傾。よ。と。六。の。轎。夫。と。も。が。杖。と。る  
 隙。も。お。ら。び。と。く。途。う。り。六。七。と。あ。る。ん。を。あ。せ。右。よ。左。よ。と。く。い。と

く。二。人。の。童。の。う。ら。く。よ。歩。う。の。海。が。気。も。さ。る。け。と。岩。屋。谷。の。東。を  
 る。豊。田。の。山。本。を。う。ら。く。よ。天。さ。く。結。陰。く。今。よ。暮。も。う。ら。べ。ん。や。う。あ。れ。は。足  
 の。運。び。も。殊。さ。う。よ。と。う。み。く。九。折。る。山。路。を。喘。く。と。る。お。も。一。叢  
 茂。る。枯。尾。花。の。さ。う。く。と。戦。ぐ。と。え。え。い。と。の。秋。憤。の。大。サ。と。く。る。荒  
 熊。忽。然。と。跳。り。出。天。庭。よ。あ。る。ん。を。一。銜。路。を。横。さ。り。暮。鳥。直。雄。ま。の  
 山。を。走。て。お。く。奴。隸。ホ。い。の。も。と。う。と。六。の。大。は。致。つ。た。ま。の。轎。よ。め。り  
 け。れ。と。左。右。あ。つ。り。追。追。ど。あ。れ。し。と。り。の。向。よ。態。も。入。も。ん。え。ぶ。ま。り  
 つ。ぶ。す。七。奮。然。と。ま。を。擦。り。續。く。山。は。登。ら。ん。と。す。る。を。六。の。杖。と。く。引。直  
 め。や。う。孩。阿。ん。気。を。変。て。何。比。一。面。く。ど。と。同。れ。く。父。を。信。と。ん。と。う。の  
 空。く。も。て。も。う。着。く。あ。る。ん。を。盤。獸。よ。銜。去。ら。れ。何。の。面  
 一。面。の。ゆ。ぐ。た。う。ら。り。ぬ。ま。も。追。追。ま。り



岩屋谷の  
東よ  
あつらん荒熊よ  
とら

百四



羊七

赤根羊六

百五













おらん  
 舞うとろて  
 名を三勝と  
 更む

屋三勝

屋三平

西水邊卷三

十四





